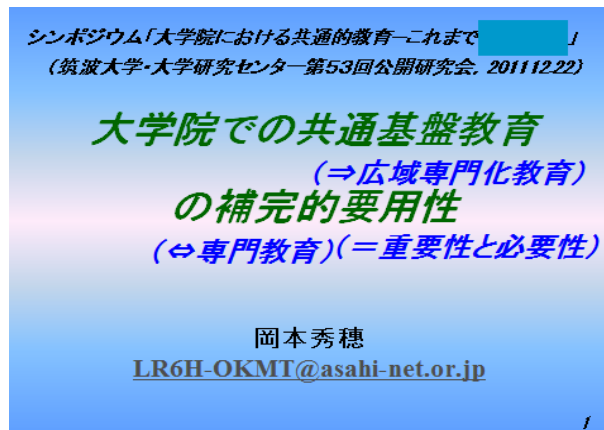


大学院での共通基盤教育の補完的要用性

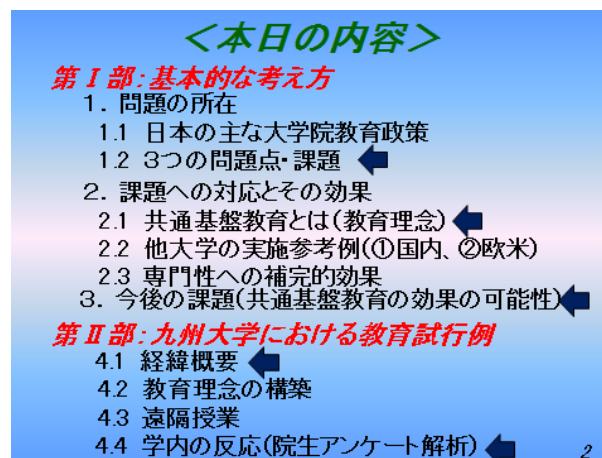
岡本秀穂¹

私は2011（平成23）年3月まで九州大学高等教育開発推進センターにおりました。したがって九州大学の「これまで」の部分に限定して、「これから」については公表された内容のみをお話ししたいと思います。共通基盤教育は言い換えて広域専門化教育とも称しています。補完的要用性とは専門教育に対する補完的で、要用性とは、辞典通り、重要性和必要性ということです。（スライド1）



スライド1 大学院での共通基盤教育の補完的要用性

第Ⅰ部 基本的な考え方の中で「1.2 3つの問題点・課題」、「2.1 共通基盤教育とは（教育理念）」、「3. 今後の課題（共通基盤教育の効果の可能性）」、第Ⅱ部 九州大学における教育試行例では、「4.1 経緯概要」、「4.4 学内の反応（院生アンケート解析）」の5項目について述べたいと思います。（スライド2）



スライド2 本日の内容

¹元・九州大学高等教育開発推進センター

まず、共通基盤教育の専門性への補完効果としての意義（スライド3）を考えたい。補完的とはどういうことか。専門教育の内容だけではやっていけないのではないか。従来の専門的な大学院教育だけではこれからの卒業生はやっていけないのではないか。イメージをつかんでいただくのが難しいので一つの例を申し上げます。

化学工学を修了した大学院生が、化学企業に就職して何年か後、東南アジアにその企業の工場長としてプラント建設の任務を負ったと仮定する。私のバックグラウンドは応用物理のドクターを出て、32年弱化学会社に勤務して研究開発を中心にやり、その後京都大学で実験をして、それまで縁がなかった九州大学の公募に応募し5年弱おりました。化学に関しては多少知見があるのでこのような例を出します。

「私は化学工学出身なので化学工学しかわかりません」というのは通用しません。現代の学生さんならTPPのことなどを理解していないといけません。たとえプリミティブな意見でも自分なりの意見をきちんと堂々と開陳できる、人前で自分のありあわせの知識で話ができることが大事です。職業となると化学工学の知識だけではとても工場を管理・運営できない。赴任国の文化、歴史、政治、経済、宗教を背景にしている現地従業員やその社会組織とコミュニケーションを潤滑に図っていかねばならない。こういう分野は、自分の専門ではないと言ってはいられない。つまり、リーダーシップを発揮するには、狭く古い専門知識だけでは無理で、グローバルで革新的な環境に、自前のありあわせの知恵で柔軟に積極果敢に立ち向かえる気構えが必要である。

大学院共通基盤教育科目を通して、自分が志向する専門分野が社会や世界全体の中でどのような位置づけにあるかを院生に改めて認識させることは極めて重要だと考えます。

専門教育の内容だけではやっていけない
共通基盤教育の専門性への補完効果としての意義(例)

化学工学を修了した大学院生が、化学企業に就職して何年か後で、東南アジアに、その企業の工場長としてプラント建設する任務を負ったと仮定する。

その人は、化学工学の専門知識だけでは、工場を管理・運営できない。赴任国の文化、歴史、政治、経済、宗教を背景にしている現地従業員やその社会組織とコミュニケーションを潤滑にはかっていかねばならない。こういう分野は、自分の専門ではないと言ってはおれない。つまり、リーダーシップを発揮するには、狭く古い専門知識だけでは無理で、グローバルで革新的な環境に、自前のありあわせの知恵でもって、柔軟に立ち向かえる気構えが必要である。

⇒大学院共通基盤教育科目を通して、自分が志向する専門分野が社会や世界全体の中でどのような位置づけにあるかを院生に改めて認識させることは極めて重要。

3

スライド3 共通基盤教育の専門性への補完効果としての意義(例)

1.2 3つの問題点・課題 (スライド 4)

異論があるかもしれませんが、私が考える問題点は以下の3つです。

(1) 研究の専門化・細分化の進行

研究の専門化・細分化の進行とともに、学問の全体像が見えにくくなり、いわゆる専門バカに陥ることもあります。一方、社会的課題は複雑多岐に亘っていて、学問に求められる課題は変化します。したがって、現在の大学院教育の内容が将来、社会で呼応しない恐れがあります。私自身も学生時代に日本語のワープロを実現することはできないという教育を当時の計算科学の大家から受けました。その理由は、日本語は同音異義語が多いので当時の技術では不可能だということで、私も納得しました。また別の例として液晶分子の外界に対する応答性、すなわち動的緩和時間が1分半位かかるので、とてもものにならないという話も聞きました。どちらも真面目な授業で私は納得しました。しかし、社会に入ってからすぐにカシオ fx-101 という関数電卓を買いましたし、世の中はどんどん変わっています。タイガー計算機なんて言っても今の学生さんはほとんどわかりません。そのように世の中がどんどん変わっていくので、教えられたことがそのまま役に立つことは非常に少ないことではないかと思えます。

(2) 大学院の大衆化の傾向

大学院の大衆化によって、大学院時代の専攻と異なる分野での知的な社会活動の必要性が増大しています。したがって大学院時代に学んだことは金科玉条のものではないと思えます。

(3) 専門教育の質の耐用年数

しかも、専門教育の耐用年数(有効性の継続期間)は専門性が高いほど一般的に短くなるだろう(特に自然化学、工学分野)と思えます。

1.2 3つの問題点・課題

(1)研究の専門化・細分化の進行
 →学問の全体像が見えにくくなる。
 ⇨一方、学問に求められる社会的課題は変化
 ⇒大学院教育の内容が将来、呼応しない恐れ。

(2)大学院の大衆化の傾向
 ⇒大学院時代の専攻と異なる分野での知的な社会活動の必要性の増大。

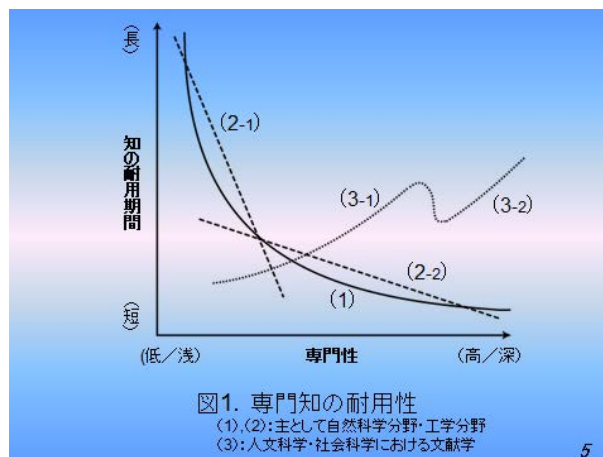
(3)専門教育の質の耐用年数(有効性の継続期間)は
専門性が高いと一般には短い(特に自然科学・工学分野)

4

スライド 4 3つの問題点・課題

「専門知の耐用性 (スライド 5)」を見ると、横軸は専門性、縦軸が耐用期間で、横軸は右へ行くほど専門性が高い／深い、左へ行くほど低い／浅い、縦軸の耐用期間は上へ行くほど長いことを表します。自然科学ではこのようなカーブ(1)(2-1)(2-2)が一般的には描けると思えます。もちろん折れ線的にもなることもあるかもしれませんが。例えば人文科学の文献考証学では、専門性が

高くなるほど(3-1)のように右上がりになることがあります。去年もある文献の時代を特定する際、放射線性同位体による年代測定で約 100 年時代を遡ることがわかったということで(3-2)に該当するかもしれません。したがって、折れ線のようになることもあるが、一般的に自然科学では右下がりになる、すなわち知が狭い領域で専門的であればあるほどその知の耐用期間は短いと思います。



スライド5 専門知の耐用性

2.1 共通基盤教育とは (教育理念)

(1) 「共通」とは? 「基盤」とは? (スライド6)

ここで言う「共通」とは、現行の各大学院内 (の各専攻) に共通ではなく、文理系大学院間に共通の教育プログラムを構築・提供するものである。「基盤」とは、各学問を支える基本的な考え方や手法のことである。あるいは自ら専門領域を広域化していけるような広域専門職教育とも換言できる。

2-1. 共通基盤教育とは?

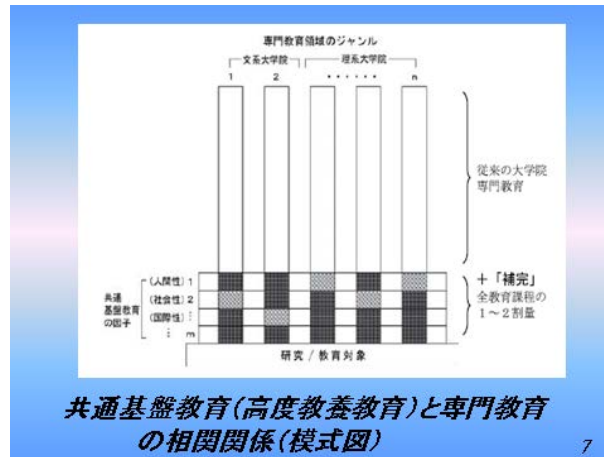
①「共通」とは?
 →各大学院内(の各専攻)に共通[現行]
 ではなく、
文理系大学院間に共通
 の教育プログラムを構築・提供する。

②「基盤」とは?

スライド6 共通基盤教育とは

共通基盤教育 (高度教養教育) と専門教育の相関関係 (スライド7) を見ると、縦軸は科目を、

横軸は専門教育領域のジャンルを表しています。九州大学では文系の大学院、理系の大学院が19個あり、従来の大学院はそれぞれ独立に教育カリキュラムを作っていました。それに対して共通基盤教育によって補完的に横串を入れようということです。



スライド7 共通基盤教育と専門教育の相関関係

(2) 何のために？ (目的) (スライド8)

共通基盤教育の実際の中身とは、初等教育でいうと読み、書き、そろばんが基本要素であるならば、私が考える高等教育の3要素は哲学、歴史、数理であります。将来の自己の専門性を踏まえて、何故？どうして？をギリギリ考える訓練を大学院でつけておけば、個別の知識は後でもいくらでも補えると思います。

<何のために？>(目的)

★私が考える共通基盤教育とは★:

初等教育: 読み、書き、そろばん

⇕

高等教育: 哲学、歴史、数理

**<将来の自己の専門性を踏まえて、
何故？どうして？をギリギリ考える訓練>**

⇔文科省(中教審答申)の基本的な考え方:

- ・21世紀は「知識基盤社会」の時代
- ・高等教育は、個人の人格形成上も国家戦略上も極めて重要

8

スライド8 何のために？(目的)

① 哲学 (スライド9)

哲学というと、大抵の人はプラトン、ソクラテスからデカルトなどの哲学史をいうが、そのよ

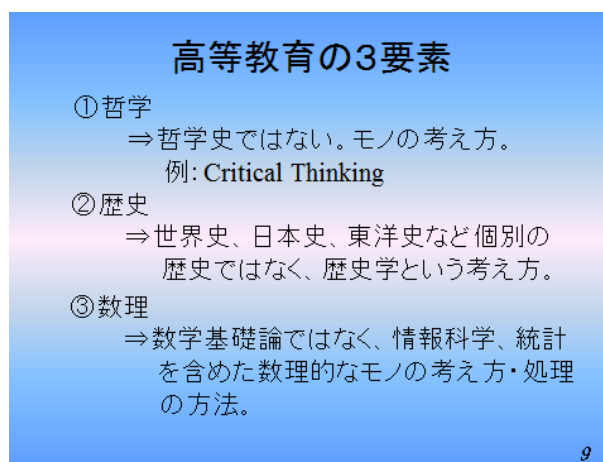
うな哲学史ではなく、モノの考え方を訓練する、いわゆる **Critical Thinking** (批判的精神) のような普遍的なモノの考え方を教育することをいいます。地球温暖化と CO2 の関係が言われているが、あれは本当かと疑って批判的に考えることは非常に大事です。必ずしも今言われていることが正しくはないので、そのようなことを考えることが大事です。

② 歴史

歴史も世界史、日本史、東洋史など個別の歴史ではなく、“汎・時空史”観のような人間の組織の歴史の基本的な考え方、すなわち歴史学をいいます。

③ 数理

数理もいわゆる数学基礎論ではなく、情報科学、統計を含めた数理的なモノの考え方、処理の方法、統計のウソを見抜く方法が必要だと思います。医学・疫学の統計で非常に怪しいと言われていることがあるが、それが本当かどうかを見極める力が必要だと思います。



高等教育の3要素

- ① 哲学
⇒ 哲学史ではない。モノの考え方。
例: **Critical Thinking**
- ② 歴史
⇒ 世界史、日本史、東洋史など個別の歴史ではなく、歴史学という考え方。
- ③ 数理
⇒ 数学基礎論ではなく、情報科学、統計を含めた数理的なモノの考え方・処理の方法。

9

スライド 9 高等教育の3要素

共通基盤教育に必要な知識と技法の要素(例)(スライド 10)を考えると、基本的な知識に加えて経済・ビジネス、環境関連、知的財産の知識、職業倫理などの基礎知識は必要とされます。みなさんが言われているように論文作成、表現法、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの表現能力、情報を検索する能力は、当然ながら技法として必要だと思います。

共通基盤教育に必要な知識と技法の要素(例):

1) 知識:

- ① 哲学:
- ② 歴史:
- ③ 数理:

} 前出

④ 基礎知識:

- 経済・ビジネス、● 環境関連、
- 知的財産・職業倫理など

2) 技法:

- ① 表現:
(論文作成、表現法、プレゼンテーション、
コミュニケーション技法)
- ② 情報検索

10

スライド 10 共通基盤教育に必要な知識と技法の要素(例)

3.1 今後の課題を取り巻く障壁 (スライド 11)

今後の課題を取り巻く障壁を順次挙げていくと、

1. 文系と理系の区別
2. 専門と教養の区別、学際の意義
3. 学問と研究、および教育と研究の区別。

学問と研究がどのように違うのか。学者と研究者はどのように違うのか。今年の不幸な原発事故は「想定外」と言われたが、「想定外」という言葉を学者が言うのかどうか。研究者は言っています。

4. 大学への“商業文化”の浸透。

最近は大学でビジネス用語が多くて、長い間企業にいた私でも少し違和感があります。大学への商業文化の浸透が果たしていいのかどうか。そのあたりも少し問題があります。これはすべて良いというのではなくて、諸刃の刃で、稜線をギリギリ歩いていくという感じです。こちらが良くてこちらが悪いというのではなくて、どちらも並存させることが必要だと思います。そのような意味でこれは議論があると思います。

5. 部局の自治と学問の自由の混同。

カリキュラムを作る上で、学問の自由と部局の自治の混同があります。自分たちは(自分たちの領域で)学問をやっているので自分たちの部局には介入しないでくれという意識がかなり強いと思います。

6. 共通基盤教育の運営体制

そういう意味で、大学院共通基盤教育を運営する体制が非常に難しくなっていきます。しかも共通基盤教育の意義を理論化していかななくてはいけないのに、今はほとんどできていないと思います。

これらはすべて大学院だけの問題ではありません。理系と文系の問題は高校からの課題で、今高校 1 年生の夏までに進路を決める高校もあります。果たしてそれで一生を決めてしまってい

いのか。ことに理系から文系へ文転するのは可能でも、文系から理系へ移るのはなかなか難しい。そのようなやり直しがきかないシステムでいいのか、ということが課題です。したがって、大学院共通基盤教育だけでなく、高校からの問題、日本の教育制度すべてに関係しているので、単に大学院だけをいじっていいものではないと思います。

今後の課題を取り巻く問題

1. 文系と理系の区別 ←高校からの課題
2. 専門と教養の区別、学際的意義
3. 学問と研究、および教育と研究の区別 (即効性では、研究>教育)
4. 大学への“商業文化”の浸透
5. 部局の自治と学問の自由の混同
6. 共通基盤教育の運営体制

➡ 共通基盤教育の意義の理論化

スライド 11 今後の課題を取り巻く問題

3.2 今後の課題 (スライド 12)

欧米の研究者と話していると、大学院共通教育を Liberal arts education in graduate school という言葉にするとまったく通じない。彼らはこれをする必要がないからです。学部 (Undergraduate) でそれを完了した人が大学院 (Graduate school) で学ぶわけで、日本とは少し違います。しかし、最近アメリカ大学院協議会の人と話しても、アメリカでもコミュニケーション力や論理的思考力が落ちているという問題があるとのこと。それはスタンフォード、ハーバード、MIT などではなく、どちらかというと州立大学です。対策のプログラムを作っているようですが、まだ一般化には至っていません。したがって、理論的根拠をきちんと構築することが必要なのだが、なかなか難しくできません。

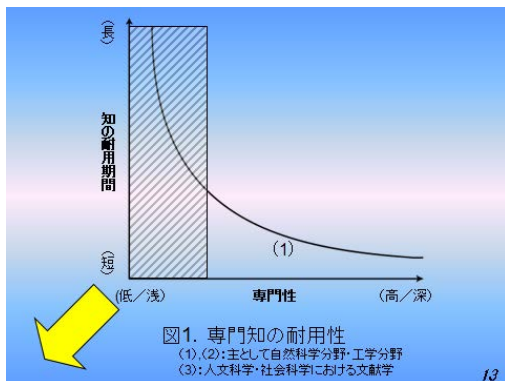
3.2. 今後の課題

**共通基盤教育の
意義と効果の可能性**

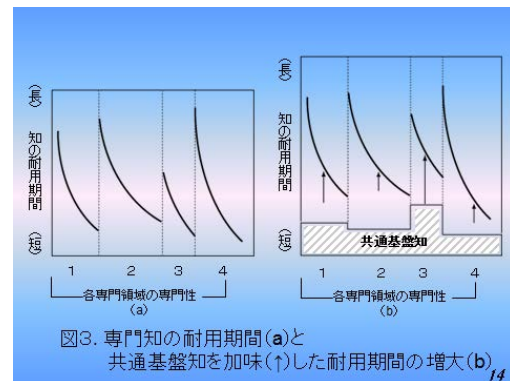
(理論的根拠の構築)
なぜ必要かつ重要なのか?

スライド 12 今後の課題

先ほど申し上げた「専門知の耐用期間」(スライド 13) に、共通基盤知を加味した耐用期間を考えるために一つの例を示します。ある人が大学を卒業して企業に就職する、あるいは官庁の研究所に行く。そうすると当然「専門知の耐用期間」は先ほどのスキームの通り落ちていきます。同じ仕事をしている人が、次に違う分野へ行くと、最初は保っていたものがだんだん落ちてくる。もちろん勉強しないといけませんが、このようにしてどんどん知が低下していく。そこに「共通基盤知」を上乗せすることができれば知の耐用期間は長くなります。(スライド 14)

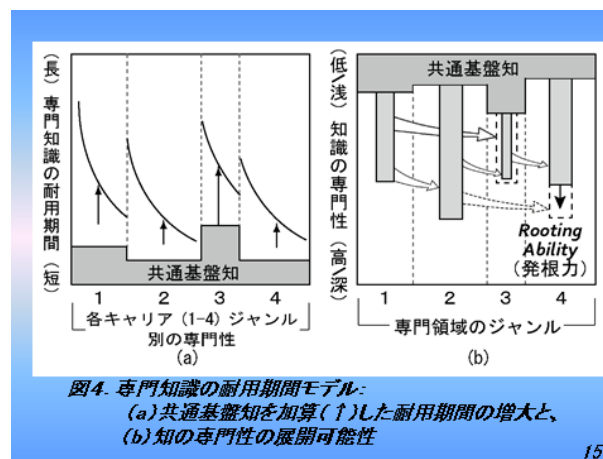


スライド 13 専門知の耐用性(図 1)



スライド 14 専門知の耐用期間の増大(図 3)

図 3 を天地逆にして、知の耐用期間を知の深さの積分量に直したものが図 4 の専門知識の耐用期間モデル(スライド 15)になります。基本的に前の知識はバラバラではなくて、前の知識が共通基盤知を通じてどんどん栄養となり、知識は次に生きてくる。したがって、根は深くなっていく。Rooting Ability (発根力) と私が呼ぶものです。

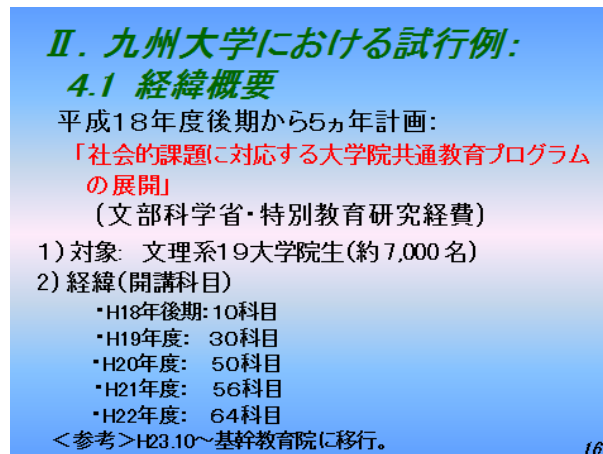


スライド 15 専門知識の耐用期間モデル(図 4)

II 九州大学における試行例（スライド 16）

4.1 経緯概要

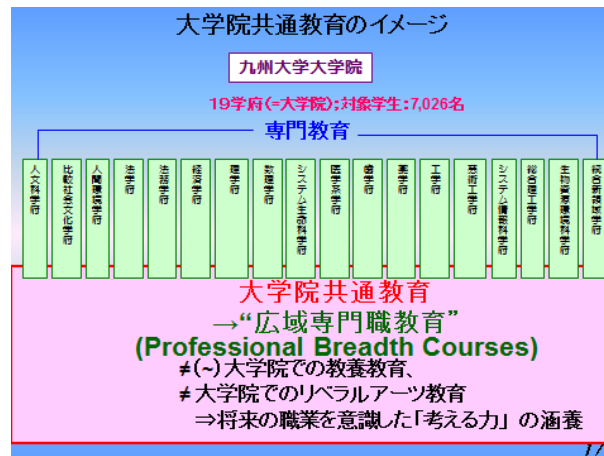
九州大学では 2006（平成 18）年度後期から 5 年計画で「社会的課題に対応する大学院共通教育プログラムの展開」が始まりました（予算は前期から、開始は後期から）。私が九州大学に採用されたのが同年 8 月で、後期授業が始まる 10 月 1 日までの 1 か月余りで全学の教務委員会なども全部通さないといけない。しかも私にはまったくコネもない。誰も知らない。非常に困ったがみなさんに助けていただき、営業マンとして全教員の全シラバスを調査しました。共通教育の基本思想に合いそうな教員をピックアップし、「先生、授業をしてください」「授業したらいくらもらえるのですか？」「やったら、どういうメリットがあるのですか？」「メリットは九州大学の学生に役に立つのです」「私は〇〇系の所属だから、他の所属の学生に教えるのは嫌だ」という教員を説得しました。とにかくやっとならしたのが 10 科目です。しかし、1 回やると全員がリピーターになり、毎年度に数十科目足して、2010（平成 22）年度には 64 科目できました。「大学院共通教育の例」（スライド 20）に科目群が詳しく書いてありますので、ご参照ください。私は 2011（平成 23）年度は知りませんが、同年 10 月から九州大学は高等教育開発推進センターを発展的解消して「基幹教育院」に改称しています。主旨は違うが、現在の組織がやっていることは前とほとんど変わらないので、今もこのような感じにつながっていると思っています。



II. 九州大学における試行例:
4.1 経緯概要
平成18年度後期から5年計画:
「社会的課題に対応する大学院共通教育プログラムの展開」
(文部科学省・特別教育研究経費)
1) 対象: 文理系19大学院生(約7,000名)
2) 経緯(開講科目)
・H18年後期: 10科目
・H19年度: 30科目
・H20年度: 50科目
・H21年度: 56科目
・H22年度: 64科目
<参考>H23.10~基幹教育院に移行。 16

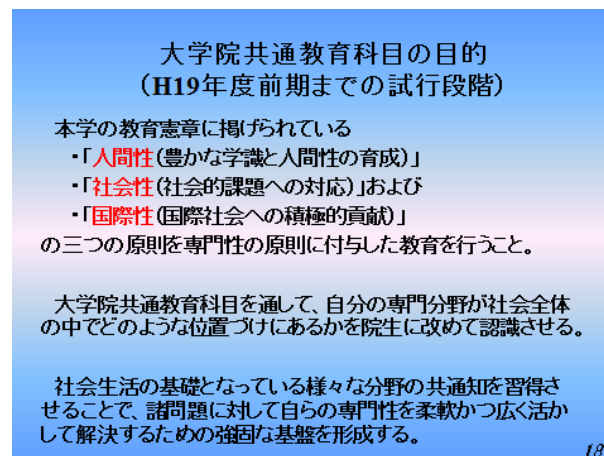
スライド 16 九州大学における試行例

私がイメージする大学院共通教育とは、“広域専門職教育”（Professional Breadth Courses）です。大学院での教養教育ではなく、リベラルアーツ教育でもない。単なる知識のための知識でなくて、将来の専門職を意識した教育ということで、将来の職業を意識した「考える力」の涵養であると考えています。



スライド 17 大学院共通教育のイメージ

九州大学の大学院共通教育科目の目的（スライド 18）は、本学の教育憲章に掲げられている「人間性（豊かな学識と人間性の育成）」「社会性（社会的課題への対応）」「国際性（国際社会への積極的貢献）」の三つの原則を専門性の原則に付与した教育を行うことでした。大学院共通教育科目を通して、自分の専門分野が社会全体の中でどのような位置づけにあるかを院生に改めて認識してもらおう。社会生活の基礎となっている様々な分野の共通知識を修得させることで、諸問題に対して自らの専門性を柔軟かつ広く活かして解決するための強固な基盤を形成する。そのような目的に合った科目をピックアップしました。



スライド 18 大学院共通教育科目の目的

文部科学省には、以下の7つの科目群を構築する、1つの科目群 7~10 の科目を配置するという事で申請しました。しかし、現実的に 2008（平成 20）年度～2010（平成 22）年度に実施できたのは(*)の3つと共通基盤科目群でした。（スライド 19）

[科目群]

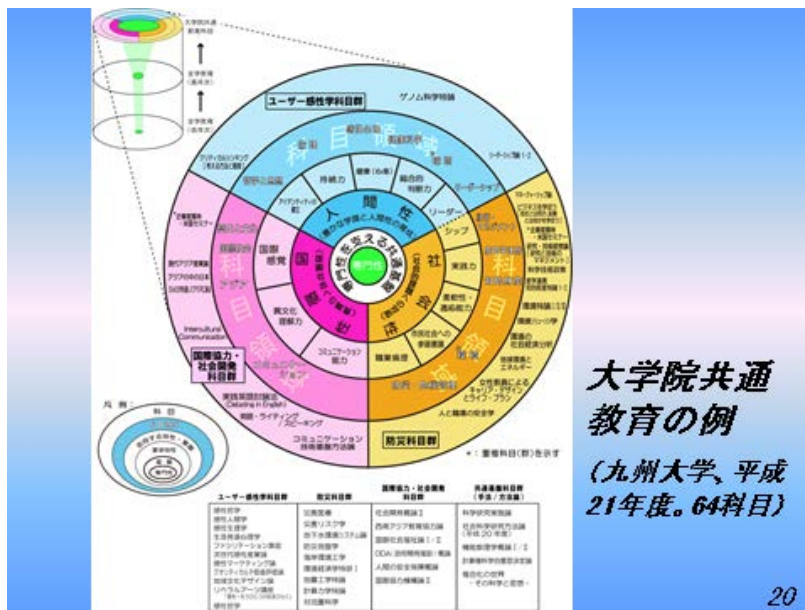
- ・感性、心理関連科目群(*)
- ・防災・自然・環境関連科目群(*)
- ・国際協力・国際貢献関連科目群(*)
- ・科学技術政策アナリスト関連科目群
- ・サイエンスコミュニケーター関連科目群
- ・知的財産・職業倫理関連科目群
- ・経済・ビジネス関連科目群
- ・共通基盤科目群

(*): H20-22年度実施の科目群

19

スライド 19 科目群

それぞれの科目群の実際の科目は「大学院共通教育の例（スライド 20）」を参照して下さい。



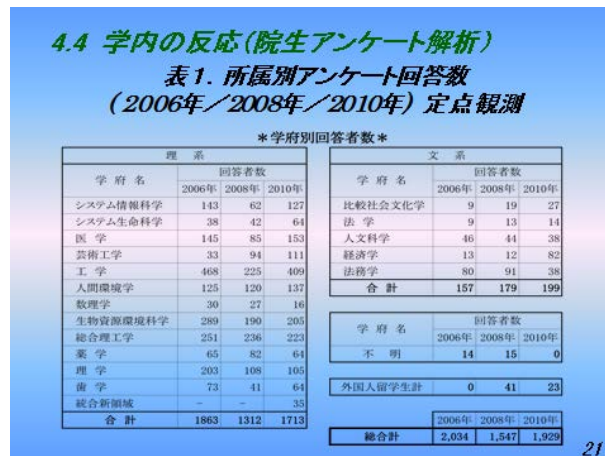
大学院共通教育の例
(九州大学、平成21年度、64科目)

20

スライド 20 大学院共通教育の例

4.4 学内の反応（院生アンケート解析）

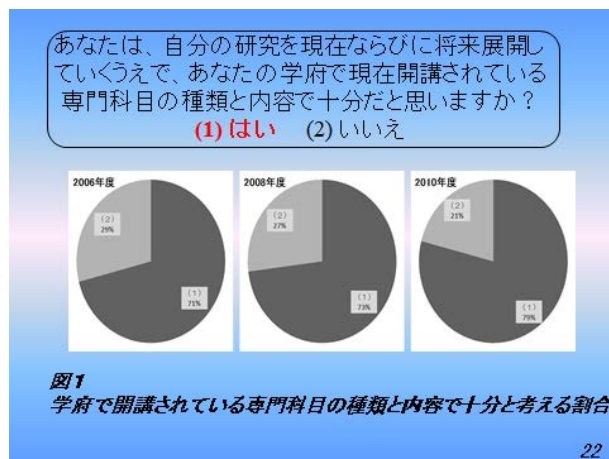
大学院生約 7000 人を対象に 2006（平成 18）年、2008（平成 20）年、2010（平成 22）年の 2 年ごとにアンケートをとりました。初回から同じことをやろうとして、質問は同じ内容で聞いています。したがって、同じ質問に対してどのような回答の変化があるか、我々の仕事の効果がどうだったかを定点観測で見ようとしています。回答率は約 3 割でした。代表的な質問を紹介します。



スライド 21 院生アンケート①

Q. あなたは、自分の研究を現在ならびに将来展開していくうえで、あなたの学府で現在開講されている専門科目の種類と内容で十分だと思いますか？ (図 1)

「(1)はい」要するに(共通教育科目が)要らないという回答は、71%(2006年度)、73%(2008年度)、79%(2010年度)でした。しかし、この質問自体論理的におかしい。今受けている人に対してあなたは今の生活に満足していますか?と聞いているのと同じで、ほとんど「(1)はい」と言うでしょう。

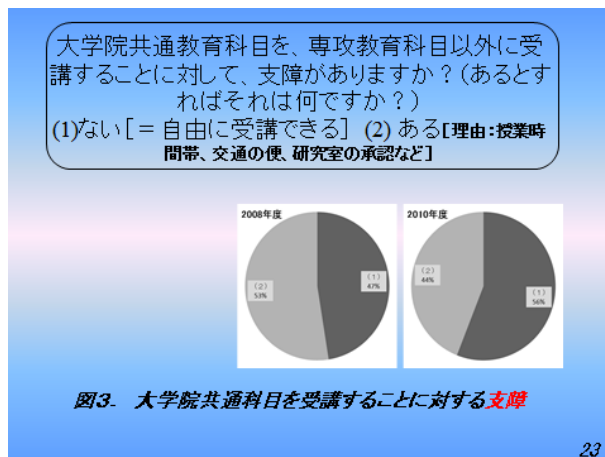


スライド 22 院生アンケート②

Q. 大学院共通教育科目を、専攻教育科目以外に受講することに対して、支障がありますか? (あるとすればそれは何ですか?) (図 3)

「(2)ある(理由:授業時間帯、交通の便、研究室の承認など)」と回答した人が 47%(2008

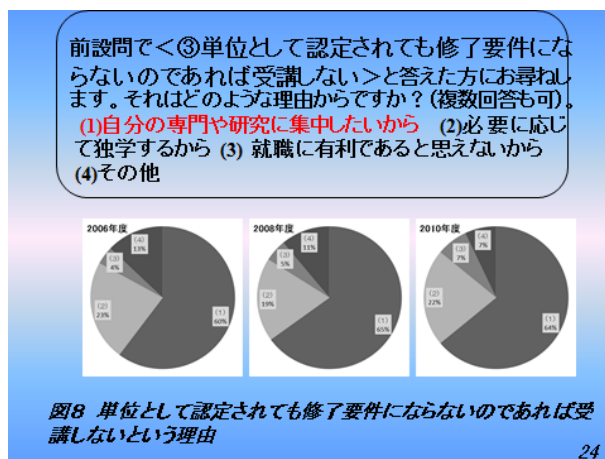
年度)、56% (2010 年度) と半数位います。



スライド 23 院生アンケート③

Q. 単位として認定されても修了要件にならないのであれば受講しないと答えた方にお尋ねします。それはどのような理由からですか？ (図 8)

「(1)自分の専門や研究に集中したいから」と回答した人が 60%(2006 年度)、65%(2008 年度)、64%(2010 年度) います。要らんことはしたくないということです。率直なところだと思います。

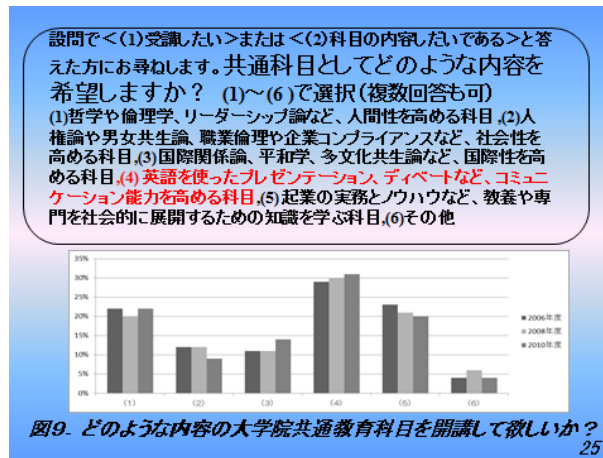


スライド 24 院生アンケート④

Q. 共通科目としてどのような内容を希望しますか？ (図 9)

「(4)英語を使ったプレゼンテーション、ディベートなど、コミュニケーション能力を高める科目」の人気の高いです。「(1)哲学や倫理学、リーダーシップ論など人間性を高める科目」も人

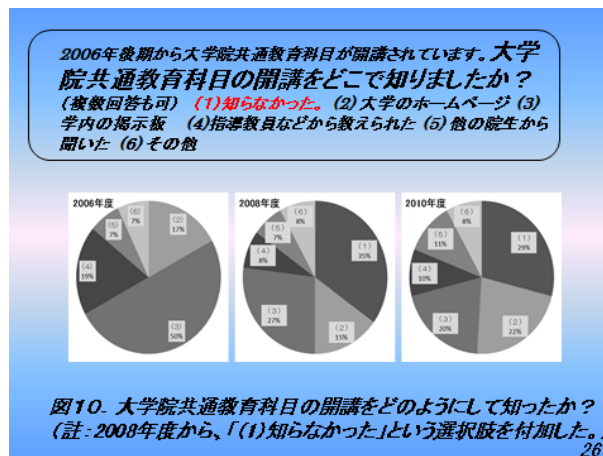
気が高いです。



スライド 25 院生アンケート⑤

Q. 大学院共通教育科目の開講をどこで知りましたか？ (図 10)

一番問題なのが、大学院生 7000 人に聞くと、大学院共通教育科目が開講されていることを知らなかったという人が 35%(2008 年度)、29% (2010 年度) と約 3 割います。



スライド 26 院生アンケート⑥

大学院共通教育科目に関する院生の認知度

A. 広報手段

- ① シラバスを集めた『履修案内』冊子を大学院生各人に配布。
- ② 大学院共通教育のホームページを 2006 (平成 18) 年度から開設
- ③ 毎学期、開講科目に関する情報をポスターにして学内掲示板上で公示

- ④ 大学院共通教育の紹介パンフレット（A4 見開き 4 頁）を作成・配布
- ⑤ 各学府専攻のシラバス冊子にもこの大学院共通教育の内容を公示印刷するように依頼

このような広報活動にもかかわらず認知度は 3 割程度です。70 ページ位の『履修案内』を配布しているはずなのにおかしいとしつこく調べました。個人個人に渡っているところもあるが、担当の教務がまとめて持っていて学生が請求に来たら渡すというところもあります。知らないというのも当然です。ある学生が前総長に私の手元にないのはなぜかと直訴して渡されていない事実がわかりました。FD (Faculty Development) の集會に積極的に押しかけて新任の教職員に対しては説明したが、残念ですがやはり知らなかったという人がいます。


ホームページを開設し告知していますが、ホームページを見ない人もいます。知らない人が 3 割程度います。

B. 院生が受講できない理由：アンケートの自由記述の回答より

- 共通教育を行う人と研究室のスタッフとの考えに相違がありすぎる。
- 研究室で、**授業に出席して研究時間が削られることにネガティブな雰囲気**があるため、興味があっても受講できない。大学として推進するという後押しがあれば、受講しやすくなる。
- 大学院では、**研究以外のこと（講義など）をすると、指導教授があまりいい顔をしない。**必要最小限にするようによく言われる。
- 研究室の教官の方々が共通科目の受講を勧めるシステムにしない受講は難しい。
- 講義を受ける上で、研究室の教授の承認を得るのが困難なことがある。
- 研究室の教員の中には、**学生が授業に出るよりも、研究をやることを良しと思っている人がいる。**（単位を必要以上多くとると、叱られたり、授業に出ないように言われる）そういう先生たちの考え方をまず変えないと、大学院生たちは安心して授業を受けることができない。
- 教授から学生に受講を推奨してもらえると学生も受講しやすくなる。
- 指導教官の顔を伺うことなく、自主的に登録できるようにしてほしい。

受講できない理由として多かったのが、教員の中にあまり良い顔をしない人がいるということでした。伝統的な大学を卒業してその大学で教授になった人は大体そうです。ところが全然違う部局があって、教員の半分位が他大学出身で、しかもいろいろな企業を回ってきた人がいるところは院生に積極的に行け行けと言う。6つに分散しているキャンパスの遠いところから来る院生もいます。トラブルを避けるために必ず大学院の指導教官の許可を得ることを受講条件にしています。だから公には問題がないのです。

現在はどうなっているかという、「基幹教育院」(スライド 27)を設置しました。ホームページで見ますと、元の大学院高等教育推進センターを継承している形の学士課程の教育がメインです。ただ、特別プログラム推進部(スライド 28)で「大学院教育の実質化に資する共通教育プログラム」を企画・運営することになっています。



九州大学・基幹教育院
(2011.10～)

九州大学
九州大学立憲
〒812-8581 基幹教育推進センター101
TEL:092-642-2106 FAX:092-642-2118
MAIL:koho@simu.kyushu-u.ac.jp
URL:http://www.kyushu-u.ac.jp

資料 1

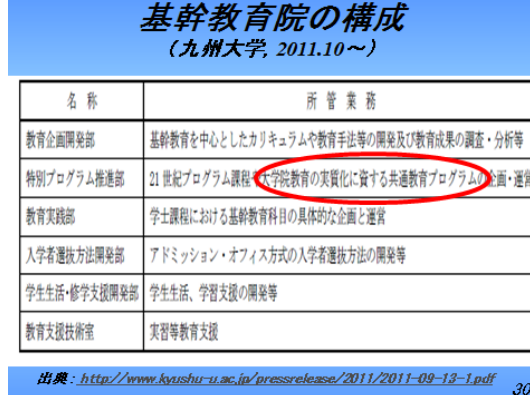
PRESS RELEASE (2011/9/13)

九州大学創立100周年を機に、
「基幹教育院」を設置
—新しいカリキュラムの構築と運営体制の確立—

要 要
九州大学は、学士課程教育において、深遠で幅広い教養教育から専門教育に繋がる充実した一貫性のある教育を推進するための「基幹教育」を構築し、その企画運営を担う全学的教育組織として、全学の強い協力体制のもとに「基幹教育院」(教員規模60名程度)を平成23年10月に設置する。基幹教育院設置後は、現在の「全学教育(教養教育・基礎教育)」に代わる「基幹教育」の構築に向けて高次元準備を行った上で、平成26年4月から開始する。

出典: <http://www.kyushu-u.ac.jp/pressrelease/2011/2011-09-13-1.pdf> 29

スライド 27 九州大学基幹教育院



基幹教育院の構成
(九州大学, 2011.10～)

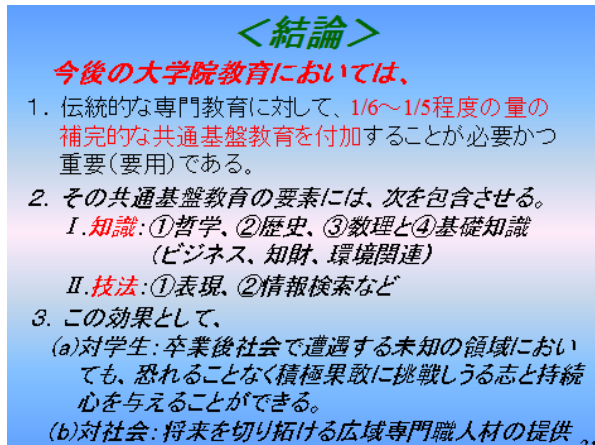
名称	所管業務
教育企画開発部	基幹教育を中心としたカリキュラムや教育手法等の開発及び教育成果の調査・分析等
特別プログラム推進部	21世紀プログラム課程・ 大学院教育の実質化に資する共通教育プログラム の企画・運営
教育実践部	学士課程における基幹教育科目の具体的な企画と運営
入学者選抜方法開発部	アドミッション・オフィス方式の入学者選抜方法の開発等
学生生活・修学支援開発部	学生生活、学習支援の開発等
教育支援技術室	実習等教育支援

出典: <http://www.kyushu-u.ac.jp/pressrelease/2011/2011-09-13-1.pdf> 30

スライド 28 基幹教育院の構成

5. 結論 (スライド 29)

今後の大学院教育においては、(1) 伝統的な専門教育に対して、**1/6~1/5 程度の量の補完的な共通基盤教育を付加**することが必要かつ重要(要用)である。(2) その共通基盤教育の要素には、**I 知識**: ①哲学、②歴史、③数理と④基礎知識(ビジネス、知財、環境関連)、**II 技法**: ①表現、②情報検索などを包含させる。(3) その効果として、(a) 学生に対しては、卒業後社会で遭遇する未知の領域においても、恐れることなく積極果敢に挑戦しうる志と持続心を与えることができる。(b) 企業を初め社会に対しては、未知の分野に対しても開拓できるような広域専門職人材の提供できる。



<結論>

今後の大学院教育においては、

1. 伝統的な専門教育に対して、**1/6~1/5程度の量の補完的な共通基盤教育を付加**することが必要かつ重要(要用)である。
2. その共通基盤教育の要素には、次を包含させる。
 - I. 知識**: ①哲学、②歴史、③数理と④基礎知識(ビジネス、知財、環境関連)
 - II. 技法**: ①表現、②情報検索など
3. この効果として、
 - (a) 对学生: 卒業後社会で遭遇する未知の領域においても、恐れることなく積極果敢に挑戦しうる志と持続心を与えることができる。
 - (b) 対社会: 将来を切り拓ける広域専門職人材の提供

31

スライド 29 結論

<補足コメント>

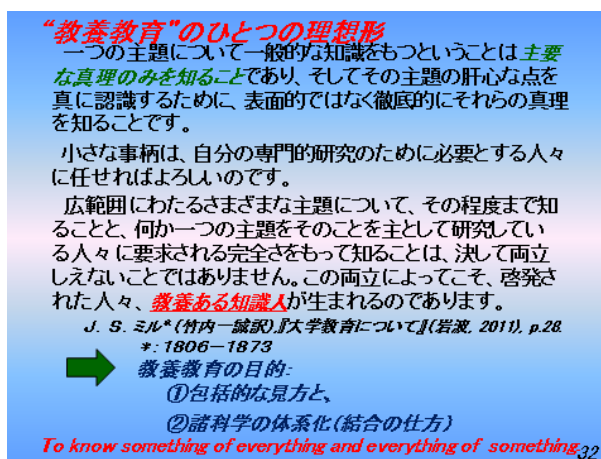
“教養教育”のひとつの理想形

最後に J.S.ミルの『大学教育について』から引用します。

「一つの主題について一般的な知識をもつということは**主要な真理のみを知る**ことであり、そしてその主題の肝心な点を真に認識するために、表面的ではなく徹底的にそれらの真理を知ることです。

小さな事柄は、自分の専門的研究のために必要とする人々に任せればよろしいのです。広範囲にわたるさまざまな主題について、その程度まで知ることと、何か一つの主題をそのことを主として研究している人々に要求される完全さをもって知ることとは、決して両立しえないことではありません。この両立できた人こそ、**教養ある知識人**であります。」

これは 1867 年名誉学長の就任講演という非常に古いものです。丸山真男さんがミルの言葉として、“To know something of everything and everything of something”と言っていました。これは教養教育のひとつの理想かと思いました。理想はなかなか実現できませんが。



“教養教育”のひとつの理想形
一つの主題について一般的な知識をもつということは**主要な真理のみを知る**ことであり、そしてその主題の肝心な点を真に認識するために、表面的ではなく徹底的にそれらの真理を知ることです。

小さな事柄は、自分の専門的研究のために必要とする人々に任せればよろしいのです。

広範囲にわたるさまざまな主題について、その程度まで知ることと、何か一つの主題をそのことを主として研究している人々に要求される完全さをもって知ることとは、決して両立しえないことではありません。この両立によってこそ、啓発された人々、**教養ある知識人**が生まれるのであります。

J. S. ミル* (竹内一誠訳)『大学教育について』(岩波, 2011), p.28
*: 1806-1873

➡ 教養教育の目的:
①包括的な見方と、
②諸科学の体系化(結合の仕方)
*To know something of everything and everything of something*³²

スライド 30 教養教育のひとつの理想形

[参考文献]

- 1) 岡本秀穂:「大学院での専門教育に対する共通基盤教育の補完的要用性」、大学教育(九州大学高等教育開発推進センター),第16号,pp.65-78(2011).
- 2) 工藤和彦,岡本秀穂:「九州大学大学院共通教育プログラムに関する学生アンケートの分析」大学教育(九州大学高等教育開発推進センター),第16号,pp.151-165(2011)